



令和元年度

〇〇小学校夏休みプール開放事業

「危機管理研修会」

令和元年 月 日 () 〇〇小体育館



このマークがついている箇所は、学校の実情に応じて作成する

自校で危機管理研修会を行う意義

- 保護者の危機管理意識の高さ
 - ・・・楽しいプール開放のカギ
- 学校で行うことによって
 - ・・・危機管理意識の共有化
- 他のPTA活動にも好影響

どのように危機管理研修を行うのか

- 時間のめやす
 - 危機管理研修・・・20分程度
 - (消防等からの研修・・・45分)
- 内容
 - ①各学校の実情に応じた「運営マニュアル」の説明
 - ②「監視マニュアル」の説明

研修を行う上での留意点

- 危機管理意識の向上が目的
 - 「真剣な雰囲気」を大切に
- 遅れてきた保護者への対応
 - ・自校でフォロー
 - ・市教委・市P主催のフォロー研修の受講
- 資料等の準備
 - 研修内容にあった持ち帰り資料の準備を



〇〇小学校プール開放運営委員会

危機管理研修会

運営マニュアル

プール開放の流れを事前に把握しておく

① ○○学校のプール開放の期間

(1) 開放期間

令和○年○月○日～○月○日

(2) 開放時間

1コマ目 午前○時～○時

2コマ目 午後○時～○時

② ○○学校のプール開放運営委員会の組織

役職名	氏名	職名	備考
顧問	○○○○	学校長	
委員長	○○○○	PTA会長	
副委員長	○○○○	PTA副会長	
副委員長	○○○○	教頭	
会計	○○○○	PTA会計担当	
委員	○○○○	PTA担当委員会委員長	
	○○○○	PTA担当委員会副委員長	
	○○○○	体育主任	
	○○○○	養護教諭	
	○○○○	PTAO学年委員長	
	○○○○	PTAO学年委員長	

③ 専属監視員

氏名	所属	連絡先
○○○○	○○豊橋会社	○○○-○○○○
○○○○		
○○○○		

④ 保護者監視員

- 1人でも欠けた場合開放を中止する
- 都合により業務につけない場合は、運営委員長及び保護者運営リーダーに連絡し、代理を当てることができる

監視体制

- 保護者運営リーダー 1人
- 保護者監視員 4人以上
- 専属監視員 2人以上

遊泳制限

- 1コマ遊泳者数 80人以内

⑤ 安全対策

- (1) バディ体制(2人組)
 - 入水前、休憩時、遊泳終了後の3回バディ確認
- (2) 遊泳制限
 - ①水深
 - 大プールを90cm以下にして使用
 - ②人数
 - 80人以内 に振り分け (例)町内や地区ごとに

⑥ 保護者監視員の業務内容

【入水前】

- トイレ、更衣室等の清掃
- 係の名札を着用
- 開放前の「運営・監視ミーティング」を行う
- 児童のプールカードで人数と健康チェック
- 児童の集合整列の補助(バディ体制)

⑦ 運営・監視ミーティング

- 1コマごとに必ず
- 「保護者運営リーダー」が中心となって、「保護者監視員」と「専属監視員」の三者で
- 開放前（児童入場前）
と開放後（児童退場後）の2回

【開放前のミーティングの方法】

- 当番の「人数」と「名前」の確認
- 当番の「係担当」と「監視場所」の確認
※AEDの場所の確認、携帯電話の手渡し
- 遊泳制限やルール等の確認
- 前回の開放での引き継ぎ事項の確認
- 開放を中止した場合

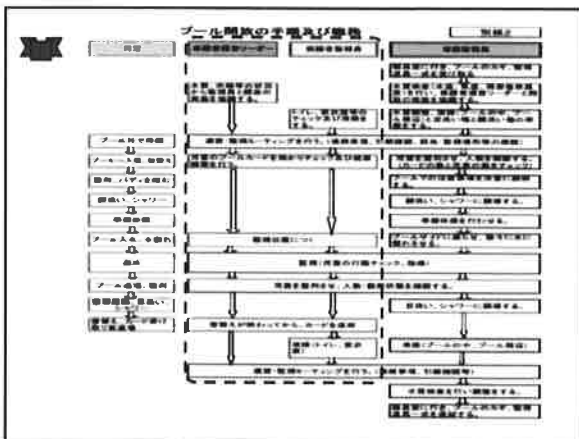
【開放後のミーティングの方法】

- 本日の監視・運営及び児童等に関する振り返りをする。
- 振り返りを「プール日誌」に記録し、次のプール開放の引継ぎ事項とする。

ハインリッヒの法則 「1:29:300」

死亡を含む重大災害が1件発生する場合、その陰には29件の軽症の災害が起きており、更に300件の潜在的な事故、いわゆる

ヒヤリ・ハット（ニアミス）
事故が発生していると考えられる。



監視マニュアル

事故を未然に防ぐ安全管理と意識
事故が発生した時の対応

プール監視の心得

○安全のための監視と指導

○事故発生時の救助活動

危機管理に対する自覚
を持って監視につく

(監視マニュアルの熟読)

①監視者の事前準備

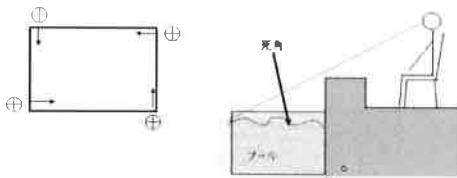
○監視の前日には、睡眠をしっかりとる

○いつでも、プールに入れる服装

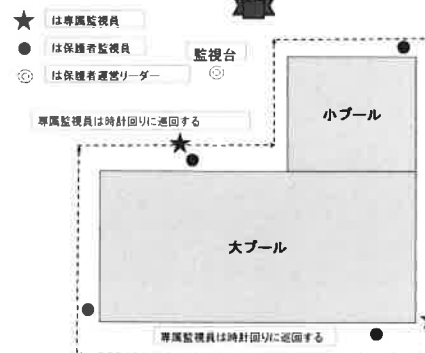
○自分でこまめに水分補給を

体調管理をしておく

②監視位置



異常を発見した監視員は、躊躇なく別の監視員に声をかけるとともに、救助に向かって下さい。



③監視の要点

監視をする上で重要なことは、プールにおける高い危険性について理解しておくこと。

具体的には、子ども(人)に対する監視と周囲の状況の変化(場所)に関する監視の2つに分けられる。



① 人 ② 周囲 ③ 場所 ④ 時間

④監視前に確認すること

① 監視のときに気を付けたい子ども

1. 動きの少ない子
2. 不規則な水音や大声を出している子
3. 水に潜っている子
4. ふざけ合っている子
5. 1人で遊泳している子
6. 小学校低学年児童

(帽子の色等で識別できると確認しやすい)



④監視前に確認すること

- ② 周囲の監視で気を付けること
1. プール内・プールサイドの危険箇所
 2. 天候の変化・気温の変化など
 3. 危険な自然現象
 4. 汚物や危険物の発見
 5. 施設・設備の不備・破損箇所

危機管理のとらえ方とは

想定外(まさか)は決して許されない
「想定力」を高めて
危機管理を絶えず継続して見直す

危機管理の「さ・し・す・せ・そ」

さ:最悪を想定し し:慎重に す:素早く
 せ:誠意を持って そ:組織で

26

⑤監視の仕方のポイント

- 水中に（顔を付けている）子に注視
顔を（上げたこと）を確認
- 水上だけでなく水中にも（目配り）
- 児童の（顔色・表情）の確認
- 一点だけに集中せず、（広い範囲）を監視
- 周りの（音・声）にも気を配る

⑥監視のパターン例「スキヤニング」



1. スキャンする監視区域すべてをカバーする
スキャンパターンを決めること
2. スキャンをする際にはプールの水面だけでなく水底や水中も行うこと
3. 常に顔や目を動かすこと

⑦監視のときの視線（スキヤニング）



⑧児童への指導

【禁止事項】

- 飛び込み
- プールサイドを走る
- 悪ふざけ（突き飛ばし、溺れるまね）
- その他、学校で禁止しているきまり

【指導の仕方】

- 大きな声で注意（プールは広い）
- 近くに来させて、同じ目線で、分かりやすく説明して注意

※何度も禁止行為を繰り返す児童は、退場させる（厳しい態度で）

⑨緊急時の対応

自分の役割はもちろん、他の係の役割も十分理解しておく

【監視員の役割】

要救護児童の救護に
全力を尽くす

【保護者運営リーダー】

- プール開放中止の判断
- 保護者監視員への指示
- 救急の場合・・・学校職員との連携

【119番通報係】

- 「119番」をかける
- あわてず、指示されたとおりに正確に伝える
「救急です。」
「〇〇小学校のプールです。」
「……………」

【AED操作係】

- AED設置場所の確認
- AEDを持ってくる
- 体を拭き、AEDの電源を入れる
- 音声ガイドに沿ってパッドを装着

※あわてず、確実に
救急車到着まではずさない

【児童誘導係】

- 要救護者から離れた広い場所に整列
- 更衣をさせる
- プールカードで再確認

※学校の先生と連携
子どもの心を落ち着かせ安全
に帰宅させる

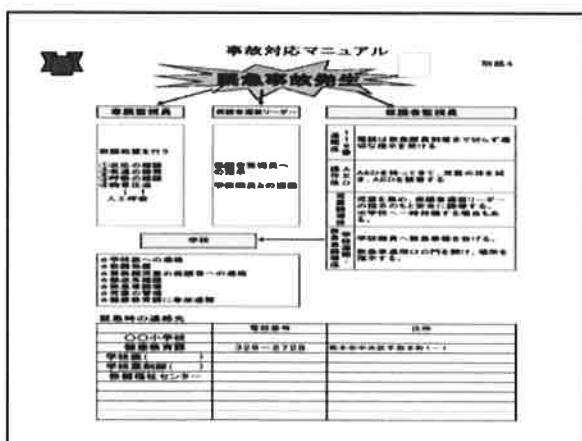
【学校通報・救急車誘導係】

- 事前に経路の確認
- 職員室に行き、応援を要請
- 救急車通用口の確保
- 救急車を案内する

※他の車や人を入れさせない

【学校の役割】

- 要救護児童の保護者への連絡
- 救護処置
- 関係機関等に緊急連絡・報告
- 児童の管理（下校指導）
- 救急車誘導 など



【遊泳中】

- プールの四隅を基本とする監視位置から集中して監視する
- 場合によっては直接指導
- 緊急時には対応を

【終了時】

- 児童をバディで整列させる
- プールカードの数と児童数のチェック
- 児童の健康状態を確認
- 子どもたちを帰した後、開放後の「運営・監視ミーティング」を行う。

最後に



監視員の皆様の高い危機意識と適切で迅速な行動が必要です。

安全・安心で子どもたちにとって楽しい思い出になる「〇〇小学校プール開放」になるようよろしくお願いします。